



スガノさん、キムラさん、〈工芸青花〉って何ですか？

菅野康晴 + 木村宗慎 × 鞍田崇

この秋、新潮社から〈工芸青花(せいかに)〉という雑誌が創刊されます。

「いま」だからこそその切り口で、工芸、骨董、建築、古書などを扱うとともに、

「雑誌」というメディアの新しい可能性を追究しようという企画。

でも、どういう新しさなのでしょう。

「二冊八千円」、「千部限定」、「会員制」、「年会費二万円」などなど、

〈青花〉のウェブを見ると、そんな文字が目飛び込んできます。

それだけ見ると、ちょっと敷居が高そうなイメージ。だけれども、

どうもそれがねらいじゃないらしい。

創刊目的は

「ファスト化の競争からひとまずおきて、工芸と本のあるべき場所をさがすこと」、

そう挨拶文にはあります。ひとまずおきる。うん、それならわかる。

でも、おきたその先に、何を現実しようとするのか。「あるべき場所」ってこのこと？

まずは、〈工芸青花〉立ち上げ張本人のお二人のお話をじっくりうかがってみましょう。

ただ、どうやらお二人も、まだ模索途上のもよう。

このトークでは、お二人の意図を手がかりとしつつ、

みなさんといっしょに

「いま」求められている「工芸と本のあるべき場所」をさがしてみたいと思います。

鞍田崇



出演

木村宗慎(茶人、「青花の会」世話人)

菅野康晴(編集者、『工芸青花』編集長)

鞍田崇(哲学者、明治大学准教授)



日時 9月18日(木) 開場 19:00 開演 19:30 終了 22:00 場所 MEDIA SHOP | gallery

会費 1700円 (1ドリンク、1フード付き) フード 秋初め旬菜弁当(naturemian) 定員 50名(要予約)

問い合わせ・申し込み先 MEDIA SHOP 齋藤 075-255-0783 mediashop@media-shop.co.jp

